

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
障害児保育Ⅱ Child Care for the Disabled Ⅱ		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程必修)	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
障害児保育Ⅰ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
小竹利夫	講義棟2階	月・火・水・木の8時～18時		授業中に指示します
授業の概要				
障害の有無に関係なく、子どもの行動の見方・気持ちの理解の仕方・対応の仕方を具体的、実践的に学ぶ。				
授業の目標				
①障害児保育の理念について学ぶことができるようにする。 ②様々な障害のある子どもの気持ちの理解の仕方を学ぶことができるようにする。 ③様々な障害のある子どもの援助の仕方を学ぶことができるようにする。 ④障害のある子の保護者への支援について学ぶことができるようにする。 ⑤関係機関との連携について学ぶことができるようにする。				
授業の方法				
様々な障害児保育の事例（ケース）を紹介しながら、具体的に進める。毎回、小レポート提出。また、各種障害の疑似体験・介助体験等を行う。障害のある子に対するおもちゃや教材を手作りする。				
学習の成果（学習成果）				
①障害のある子の行動の意味や気持ちを理解する視点を持つことができる。 ②様々な障害のある子に対して、気持ちに寄り添った支援をすることができる。 ③関係機関と連携し、障害のある子とその保護者を支援することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(授業の内容・進め方・評価の方法)。			
第2回目	「障害」の概念。			
第3回目	障害児保育の実際（保育所）。			
第4回目	障害の疑似体験。			
第5回目	言葉の発達の道筋。			
第6回目	言葉の発達の条件。			

第7回目	重度重複障害児の理解と援助。
第8回目	発達を促すおもちゃや教材。
第9回目	言葉に遅れがある子の理解と援助。
第10回目	要保護児童の理解と援助（虐待）。
第11回目	保護者や家族に対する理解と支援。
第12回目	知的障害児の理解と援助。
第13回目	発達障害児の理解と援助。
第14回目	障害児保育の実際（障害児通所施設）。
第15回目	支援の場の広がりとならぎ。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	授業を集中して聞き、質問に対して積極的に答える。必要なことはきちんとノートに取る。
レポート	70%	授業の中でレポートを書く。授業の内容を理解した上で、自分の考えを展開することが求められる。1回5点満点で計14回。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

参考資料：「子ども達の思いを探して」（小竹利夫）。  
テキスト「保育・教育実習での学びと支援」。その他、適宜資料を配布。

履修上の留意点・ルール

私語禁止。飲食禁止。